

1年1組 算数科指導案

場 所：1年1組教室

1 単元名「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

2 単元の目標

本単元では、減法の意味を操作などをもとに理解し、場面を減法の式に表して計算することができることを目標としている。

そのために、本単元で大切にしていきたい見方や考え方は、以下の通りである。

- ・求残、求補、求差の場面について、「のこりは」「ちがいは」などの言葉に着目して場面の状況を正しくとらえ、立式すること
- ・数量の関係に着目し、減法の場面であることを、ブロック操作や図、言葉などで説明したり、式を読み取って場面を問題文として表したりすること
本時では、特に言葉に着目して場面の状況をとらえ、ブロック操作や図式化によって、加法か減法かを説明できるようにする。

3 児童の実態

問題に対して、積極的に向き合おうとする児童が多い。ただ、数に対する経験不足か、1, 2, 3...の数と○番目が一致しなかったり(なんばんめ)、「8は5と○」のような問題(いくつといくつ)で悩んだりする児童がいる。

全体交流では、自分の考えをしっかりと話せる児童が多いが、ペア交流やスクランブル交流では、自分から話しかけられない児童もいる。

4 研究内容に関わって

研究内容1 見方・考え方を働かせるための手立ての工夫

(2) 単元で活用する算数用語や本時に活用するキーワードの明確化

前単元「あわせていくつふえるといくつ」で、加法の場面であるとわかる言葉を、本単元では、減法の場面であるとわかる言葉を見つけ、集めてきている。本時では、問題文を読み、これまで見つけた言葉はあるか、どのような場面であるのかを考え、説明できるようにする。

(4) 数学的な表現の準備

これまでの学習で学んできたブロック操作や、図での表し方から、自分が説明しやすい方法を選択し、この問題が加法であるのか減法であるのかを説明できるようにする。どちらでも自己選択できるように、ブロック、ノートを準備しておく。

(5) 教師の働きかけ

「きました、だどどのようにブロックをうごかしたらよいかな。」

「つかいました、はどのようにブロックをうごかすのかな。」

言葉とブロック操作をつなげることで、場面を正しく理解できるようにする。

研究内容2 学びを深める学習活動の工夫

(1) 個人追究の在り方

①自分の考えをもつための根拠の選択

ブロック操作や図など、これまでに学習した内容をもとに、自己選択して取り組むことで、より自分が場面を把握しやすく、また仲間に説明しやすい方法を選ぶことができる。それによって、より主体的に学習に向かうことができると考える。

(2) 伝え合う活動の工夫

①目的を明確にした小集団交流・全体交流の位置付け

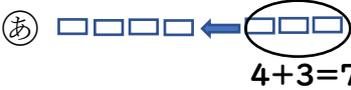
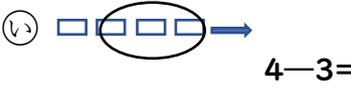
自分の考えをもつことができた児童から、自由にスクランブル交流を行う。それによって多様な考え方に触れるとともに、繰り返し自分の考えを説明することで、より考えを確かなものにすることができる。

また全体交流では、操作をしながら自分の考えを話すだけでなく、仲間の説明を聞きながら別の児童がブロックを操作する発表形態を位置付ける。それによって、仲間の考えをより深く理解することができる。と考える。

5 本時の展開（10 / 11）

本時のねらい：具体的な場面で、どんな計算になるかをブロック操作を通して考え、加法、減法の演算決定をし、立式して答えを求めることができる。

本時児童に働かせたい見方・考え方：言葉に着目して場面の状況をとらえ、ブロック操作や図式化によって、加法か減法化を説明できる。

段階	学習活動	研究の具体的方途
<p>つかむ</p> <p>考えをもつ</p> <p>考えを深める</p> <p>考えをたしかにする</p>	<p>1 既習内容を確認する。</p> <p>2 問題をつかむ。(◎共通点・⇔相違点)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>㉑ りすが4ひき いました。 3ひき きました。 ぜんぶで なんびきに なりましたか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>㉒ おりがみが 4まい あります。 3まい つかいます。 のこりは なんまいですか。</p> </div> </div> <p>どんな計算をしたら、答えを求めることができるかな。 ・4-3かな。◎ ・どちらもひきざんでいいのかな。⇔</p> <p>3 課題を生み出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>たしざんか ひきざんか かんがえて、しきをかいてこたえよう。</p> </div> <p>4 自分の考えをもつ。</p> <p>○ブロック操作で</p> <p>㉑  きました → たしざん $4+3=7$ <u>こたえ7ひき</u></p> <p>㉒  つかいます → ひきざん $4-3=1$ <u>こたえ1まい</u></p> <p>○図をかいて説明する</p> <p>5 考えを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作で立式の根拠を説明しながら、それぞれの問題の式と答えを発表して、確認する。 ・スクランブル交流後、全体で交流し確認する。 ・言葉で説明する児童とブロックを操作する児童が組になって発表する。 <p>6 まとめをする</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ぶろっくを うごかすと、たしざんか ひきざんか わかり、ただしく しきが たてられる。</p> <p>もんだいの ことばをみると、たしざんか ひきざんか わかる。</p> </div> <p>7 評価問題をやる</p> <p>❖ 1の問題に取り組む。 先生問題に取り組む。</p>	<p>【研究内容1 (3)】</p> <p><本時につながる既習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文から立式するための「大切な数」 ・加法・減法がわかる「大切な言葉」 <p>【研究内容1 (2)】</p> <p><本時に活用するキーワード></p> <p>きました ぜんぶで つかいます のこりは</p> <p>【研究内容1 (4)】</p> <p><数学的な表現の準備></p> <p>ブロック 丸図がかけるシート</p> <p>【研究内容2 (2)-①】</p> <p><小集団交流の位置付け></p> <p>①小集団交流の目的。</p> <p>ブロックを操作しながら、自分がたし算かひき算かを考えた根拠を説明することで、キーワードをつかって分かりやすく説明する力をつける。</p> <p>②小集団交流を充実させるための手立て。</p> <p>仲間の話に合わせて、ブロックを操作してみることで、仲間の考えをより深く理解する。</p> <p><評価規準></p> <p>問題文から状況をつかみ、正しくブロックを操作したり立式したりすることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>A 正しく操作しながら説明ができる。</p> <p>B ブロックを操作したり、図に表したりすることができる。また、それを見て場面を理解することができる。</p> <p>C ブロック操作や図で表すことができない。</p>